

平成 27 年度第 1 回さぬき市子ども・子育て会議

1 日 時 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 18:00～

2 場 所 さぬき市福祉事務所 303 会議室

3 出席者

[委 員] 佐竹勝利 杉浦修造 谷口広海 永滝郁代 福西マリコ
木村彰伸 白井浩勝 六車正徳 大西由美 宮本暢子
筒井美佐子

[事務局] 山本孝広 安富眞司 真部哲男 佐藤仁美 多田端子 山田裕子
谷訓昌 黒川久美子 松岡晴菜

[傍 聴] 0名

4 議 題 子ども・子育て支援計画の進捗について
本市における幼保一元化の検討について
津田地区における幼保一元化の検討について
民間事業者による認定こども園新設の要望について

5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	<p>それでは、只今から「平成 27 年度第 1 回さぬき市子ども・子育て会議」を開会いたします。</p> <p>本日は、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。会長・副会長が選出されるまでの間、進行役をいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。座って進行させていただきます。</p> <p>はじめに、山本健康福祉部長から委員の皆様へ委嘱状の交付をいたします。お名前をお呼びいたしますので、その場でご起立をお願いいたします。</p> <p>【委嘱状交付】</p> <p>次に、開会にあたりまして、山本健康福祉部長から、ごあいさつを申し上げます。</p>
(部 長)	(部長挨拶)
(事務局)	<p>続きまして、任期最初の会議でございますので、皆様から自己紹介をいただきたいと思ひます。自己紹介につきましては、お配りしている名簿の順に、自己紹介をお願いしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>【自己紹介】</p>
(事務局)	<p>ありがとうございました。本日の会議でございますが、委員 15 人中、11</p>

	<p>人のご出席をいただいております。「さぬき市子ども・子育て会議条例」第5条第3項の規定に基づき、委員の過半数が出席しておりますので、本日の会議が成立しておりますことをご報告いたします。</p> <p>また、「さぬき市附属機関の委員の構成および会議の公開に関する指針」に基づき、本日の会議は公開となりますのでご了解ください。</p> <p>次に、新しい委員さんもおられますので、「さぬき市子ども・子育て会議」につきまして、事務局からご説明いたします。</p> <p>【事務局説明】</p> <p>次に、「会長・副会長の選任について」、お諮りしたいと思います。</p> <p>会長・副会長の選任につきましては、「さぬき市子ども・子育て会議条例」第4条第2項の規定に基づきまして、委員の互選により定めることになっております。委員の皆様のご意見をお願いいたします。</p>
(委 員)	互選になっていますが、事務局の方で提案があるのでしたら、事務局一任して提案していただけたらと思います。
(事務局)	事務局一任の声がありましたが、よろしいでしょうか。
(一 同)	(異議なし)
(事務局)	事務局では、会長に高松大学副学長の佐竹委員さん、副会長にたらちね保育園の杉浦委員さんを選任したいと考えておりますが、よろしければ、拍手をお願いいたします。
(一 同)	(拍手)
(事務局)	ありがとうございます。それでは、会長には高松大学副学長の佐竹委員さん、副会長にはたらちね保育園の杉浦委員さんが選任されました。佐竹委員さんと杉浦委員さんは、会長席・副会長席の方に移動をしていただいて、ごあいさつを頂きたいと思っております。
(会 長)	選んでいただいて、ありがとうございます。些か荷が重いと思いますが、さぬき市については皆様の方がよくご存じですし、いろんな状況も踏まえていらっしゃるのでも委員の皆様のご協力を得ながら、進行の方は進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。
(副会長)	たらちね保育園の杉浦でございます。私も大変荷が重いと感じております。さぬき市の子どもたちの少しでもお役に立てればと思ってお受けしたいと思っております。山本部長さんのお話にもありましたけれども、制度が4月1日から施行されまして、現場での混乱は全くないのですが、運営の方で行政の方は大変苦勞されているということもあります。まだ決まってないこともたくさんありまして、それは子どもの幸せに繋がるのかと、今後について気にはしていますが、精一杯補佐としてがんばっていきたく思いますので、よろしくをお願いいたします。
(事務局)	ありがとうございました。それでは、会議に入る前に資料の確認をお願いいたします。

	<p>なお、本日の会議につきましては、公開となっております。本日、傍聴の申し出はございませんので報告いたします。</p> <p>それでは、議事に移りたいと思います。「さぬき市子ども・子育て会議条例」第5条第2項の規定に基づき、会長は会議の議長となることになっておりますので、これからの進行につきましては、会長をお願いをしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
(会 長)	<p>それでは、議事を進めさせていただきます。まず、議案第1号「子ども・子育て支援計画の進捗について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>【議案第1号説明】</p>
(会 長)	<p>ありがとうございました。議案第1号につきまして、ご質問ご意見がございましたら、お願いしたいと思います。</p>
(会 長)	<p>1号認定というのは従来の幼稚園にあたるものですか</p>
(事務局)	<p>はい。</p>
(会 長)	<p>他にご意見がなければ、議案第1号につきましては、終了したいと思います。</p> <p>次に、議案第2号「本市における幼保一元化の検討について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>【議案第2号説明】</p>
(会 長)	<p>ありがとうございました。資料がたくさんありますので、大変ですけども、わからなかった点ご意見等がありましたらお願いします。</p>
(委 員)	<p>さぬき市の幼稚園・保育園は、すべて新制度になっているのですか。</p>
(事務局)	<p>はい、さぬき市の公立幼稚園・保育所は今後全て一元化、認定こども園を視野にしてということで考えております。</p>
(委 員)	<p>移行はされていないですか。</p>
(事務局)	<p>まだ、検討段階ですので、これからということです。</p>
(副会長)	<p>期限は設けていないですか。</p>
(事務局)	<p>今現在、検討はしていますが幼保一元化の実施計画の策定を急いでしなければならないというふうに考えております。近い内に、計画を策定したいと思っています。</p>
(委 員)	<p>一元化ということは、幼保連携型を考えておられますか。</p>
(事務局)	<p>基本的には幼保連携型でいきたいと考えております。</p>
(会 長)	<p>最終的には全部一元化するというのですか。例えば、幼稚園、保育所を残して三本柱という考えもありますが。</p>
(事務局)	<p>現段階では、すべて一元化という方向で検討していこうと考えております。</p>
(委 員)	<p>10 ページの4で、本市における公立幼稚園・保育所の課題についてですが、この6項目をお聞きしていると、もうそれなら幼保一元化しかないだろ</p>

	<p>うというご説明でした。逆に今の幼稚園・保育所の、メリット、良いところ、これはどういう所でしょうか。お尋ねしたいと思います。例えば、児童数が減少していること、これはどこも同じだと思います。減少が課題になるとしたら、むしろ少ないことのメリットはないのだろうか。課題だけではなく今ある幼稚園・保育所のメリットもお聞かせいただいたら判断資料になってくるかと思います。</p>
(事務局)	<p>幼稚園・保育所それぞれ連携しながら子どもさんを預かってきたわけですが、保護者の就労体系が変わってきています。幼稚園に預けられているお父さんお母さん方につきましても、預かり保育を利用されている方が多いということもありますし、そういう意味で認定こども園を作れば、支援センターで行っています子育て相談とかの事業も十分に対応した形でやれるのではないかと考えております。総合的に教育保育を進めていきたいということで考えております。幼稚園・保育所それぞれの役目があって、それぞれの立場でやってきていますので、それが良い悪いではないのですが、近年の少子化とか保護者の状況とか一貫して教育保育をしていったらどうか、一元化を検討していったらいいかどうかで判断しております。幼稚園の園長さんや保育所の所長さんもおられますのでご発言をお願いしたいです。現場のこういうところは良いですという話をさせていただけたらと思います。</p>
(委員)	<p>保育所ですが、まさに津田地区の保育所は子どもたちの減少で少子化になっています。それなりに異年齢保育を取り入れながら、幼稚園との交流も取り入れながらも保育をしています。小規模ながらも子どもたちの明るい笑顔をモットーに日々保育しています。地域の方たちと交流を兼ねながら、地域の中で育っている子どもたちということをメリットとして津田地区の方は掲げているつもりです。</p>
(委員)	<p>幼稚園ですが、先ほど子育て支援課長さんがおっしゃられたように2ページにありますように幼稚園の園児数が減少しています。議案1の6ページにありますように、預かり保育利用率もそんなに多くない園も見受けられます。ということは働いている方は保育所に行っているように見受けられます。幼稚園は、お家でゆっくりとした保育を充実して受けている教育、時間に急かされることなく情緒面とか親の愛を受けて育っています。また小規模園もありますが異年齢保育も取り入れながら、また地域の人たちとふれあいながらゆっくりとして、精神的な面は非常に安定していると思います。</p>
(会長)	<p>人口が小規模になっているから地域との交流が深まっているということはメリットですね。幼稚園の場合は、時間が短い分家庭でのふれあいが長いということがメリットですね。</p>
(委員)	<p>保育者の専門性からみると、統合した方がメリットがあるのか、別々の方がメリットがあるのかどうですか。</p> <p>幼稚園としては、幼稚園教育は保育時間が短いため、職員がその後研修の</p>

	<p>時間に回せるので、みんなが一斉に集まって研修が出来るということで、保育者の専門性としては高まっていると思っています。</p>
(委 員)	<p>保育所は、丸一日 17 時 18 時まで子どもたちがいますが、お昼寝の午睡の間に二交代に分けて研修の時間を設けています。そこで出来なかった分は、子どもたちが帰ったあとの夕方に研修をして専門性が低くなるということではなく研修をしています。</p>
(会 長)	<p>現在のメリットから考えておりますけれど、両方併せ持つということは、専門性が広がると考えれば、広がる分、環境支援とか待遇改善とかが伴う必要があると思います。</p>
(委 員)	<p>小学校の場合も、人数は少なくなってきて学級数は減ってきていますが、人数が少なくなったから教育がしやすくなったかといったらとんでもないことで逆に難しくなっている。規範意識が希薄化しているとか社会性の欠如だとか耐性がないだとか小学校で感じているということは、幼稚園だってそのはずです。そうした時に、小学校は県が香川型指導体制ということで、更に少人数にしたりとかティームティーチングによる学習指導を進めたりだとか、あるいは生徒指導的なものについて教員を配置したりしています。そういうことから考えていくと、幼稚園も大変なはずだと思います。幼稚園との交流で幼稚園に出向くことがあるのですが、幼稚園の先生は大変です。たくさんいるんですけども、支援員さんが多くて、実際の教諭は数少ないです。それで本当に望まれているようなことができていくのかと常々感じています。小学校だと教頭先生もいますし、養護の先生もいます。幼稚園は教頭先生はいませんし、養護の先生もいません。そんな中で、園長先生たちが何から何まで一生懸命している姿を見て大変だなと感じています。先程、先生は集団で研修が受けられると言われましたが、いつもいつもそうではないのかなと思いながら話を聞かせてもらいました。こども園として一元化していく時に、安心して任せられるだとかについて、一番大事なことは、人的な環境が整っているかどうかでないかと私は思います。そのことについてどんな風なことを考えていくかが示されなければ、はいこれでいいですかと話あうことは非常に難しいと感じています。率直な意見です。</p>
(会 長)	<p>そういうメリットがあるにも関わらず、新しい方向にいかうとしているということはメリットを失わないような対応を考えなければならないということですね。もちろん小規模化してしまっ、経営上困難な部分もあるでしょうけども、両方を踏まえていくことはどうだということですね。</p>
(委 員)	<p>幼稚園のお迎えは、ご両親がお迎えに来ている率が高いですか。</p>
(委 員)	<p>園にもよると思います。おじいちゃんおばあちゃんが迎えに来たりするところもあります。お父さんお母さんの割合の方が過半数だと思います。</p>
(委 員)	<p>さぬき市はお父さんお母さんがお迎えに来られる方がキープできているということですね。今の年代のお父さんお母さんは、給料がたぶんこれから</p>

	<p>もそんなに高くないという予想がでていて、共働きで子どもを育てていくという環境が一昔前よりかなり高くなるであろうと思います。だとすると預かり保育を利用して、長時間見てもらうか保育所という形で朝から預けるかという選択をするときにどちらにしても長時間見てもらわないといけなくなっていくと思います。ただ、さぬき市はおじいちゃんおばあちゃんが同居されているとか近所に住まわれているという方が多いので助けてもらえるけれど、ひとり親だとか援助がない方や、おじいちゃんおばあちゃんがいても車に乗れないとか、そうなってくると、送迎が出来ないからその時間帯が無理となっていく率が高くなると思います。人口の多いところでも、長時間見てもらえるところでないとお母さんたちが働けない状態は本当に多くなってきている。今まではお父さんが働いてくれて、お母さんは不足の部分をパートで補いましょうで、十分やっていたところが本当に二本柱でないと、子どもを学校に行かせて貯蓄ができない、生活がキープできないと言われているので、共働きが奨励されているということもあります。私は、自分の子どもは幼稚園に行かせて楽しく子育てができました。ただ、自分の子どもが子どもを今幼稚園に入れられるかとなったときに、共働きで、私は県外となるとこの人たちは保育所で長時間預かってもらわないと生活ができないだろうなと思います。両方とも良いところはあるかもしれないけれど今からの保護者はすごく大変なので、さぬき市も長時間預かってもらえる施設というのを頭において、今から考えていくようにしないといけない。一番弊害になるのは、幼稚園教諭と保育士さんに交流がないこと。学校教育と児童福祉の関係で、微妙に上下をつけたがる。そういう関係があるからうまくいかないと聞いたことがある。さぬき市が一元化していこうとするのであれば、現場の先生や保育士さん達がお互いに理解しあっていたかかないと、結局はしわ寄せは子どもや保護者にいくようになる。幼稚園と保育所に働いている方の交流はどうなっていますか。</p>
(事務局)	<p>人事の交流は今現在行っていないので、今後一元化にあたってはいろんな研修とか人事異動をして計画していきたいと思います。</p>
(委員)	<p>それがうまくいけば、きっと上手にやって行けるような気がします。過去の経験もあるので、そんなに大きい街ではないので歩み寄るのは大丈夫だと思います。そちらの方向にいくと決めるのであれば、早急に動けることはいっぱいあると思います。良いところを残すこと、自分の持ち場の良さは、先生たちは十分に知っていると思います。人数が足りないのであれば、合併もありではないかなと思います。それでひとつのところに人数が集まりゆとりをもって子どもに接することができたらそちらがいいと思います。</p>
(事務局)	<p>先程の幼稚園教諭と保育士の交流部分ですが、現在は人事交流は行われていません。従来、幼稚園教諭と保育士を別々に採用した経緯がありますので、意図的に何かやらないと交流が深まらないという状況にあります。将来的に</p>

	<p>認定こども園になるかは別としても、幼児教育保育を具体的に考えて行く上で両方の職種がお互いの現場を知り合うのはすごく大切なことだと思っていました。特に今年度から幼稚園では教育委員さんに現場の保育を見てもらう機会を持っているのですが、そういった場合に保育士の先生方にも声かけをして時間が取れる方に参加してもらうことを始めたり、保育士の研修の場に参加できる機会も作っていき、今の体制で交流が深まるような努力をはじめています。確かに制度も違いますし、やってきた歴史も違いますが、それぞれの中で育ててきたものがあると思うので、幼保一元化で取り組んでいくのであれば、両方の良さができるだけうまく発揮できるような、職員面からも考えていかなければならないと思っています。</p>
(会 長)	<p>この制度自体が一元化ということですが、資格は保育教諭の両方持てるようになるのですか。</p>
(事務局)	<p>免許、資格については、さぬき市合併してから両方の資格を持った方を採用しています。当初は、職種をどちらか選択できなかったのですが、希望に沿わない場所に配属された場合の問題点を考慮して、資格は両方持っているが職種を選択できるような形になっています。これからは一本化していくことは必要なのかなと思います。</p>
(委 員)	<p>さぬき市の現在保育士をしております。今、課長さんがおっしゃられたように幼稚園と保育所の研修の場も担当の方が考えてくれて参加しています。勤務場所である寒川保育所は幼保一元化はしていないけれど同じ敷地内に幼稚園、保育所、児童館があります。なので、発表会や運動会とか大きい行事のときは、幼稚園と合同でしていますし、児童館と一緒に芋掘りしたりとか、別々の施設で同じ敷地内にあるという状態ですが、交流も盛んにやっております。今の園に勤めるまでは、ずっと保育所勤務だったので、幼稚園さんは教育的な部分が強いという、保育所に勤めておりながらそういう意識でしたのですが、実際昨年寒川保育所に勤務をして2年目になるのですが幼稚園さんの研修にもたくさん参加させていただいて思うことは、保育所も幼稚園も指針が新しくなりましたし、勉強している内容も資質自体の考えも同じで、同じように勉強しているので、差がないように感じました。次に津田地区が統合する予定になっていますが、基本的にどうやっていきたいかをしっかり練って、過去の失敗点を生かしていかなければならない。あと、保育所も幼稚園もそうですが、職員が足りないのが、小規模園が合併したからといって人数が増えるというのは考え違いで、子どもが少なからうが行事は減らないので職員の数は必要です。職員数が足りていない現実、所長は兼務なので、事務員がいないところに、事務の仕事も任され、職員が足りないでクラスにも入り、そういう現状もあるので、職員確保は大きな課題です。支援が必要な子どもさんは増えてきていますので認定がおりなくてもクラスの中でコミュニケーションがとれない子どもさんはたくさんいて、人の手</p>

	<p>がかかるようになっていきます。かといって資格のない人が増えても責任問題があるので困ります。いろいろな面で課題はいっぱいかなと思います。現場の意見です。</p>
(副会長)	<p>先生の話の中で、保育士が足りないということは全国的な課題であると思います。私どもの園は恵まれていまして、短時間勤務が5人6人おります。若いお母さんで保育士の資格を持って子どもを産むと一日フルタイムで勤務は大変なので短時間働きたいという方がいます。保育士になりたい若い方で、今は資格がないという方も雇っています。公立保育所ではこういった短時間保育の受入はどうでしょうか。フルタイムは新卒含めてもいないです。</p>
(委員)	<p>保護者の方で、保育士資格を持っている方が3名いらしてお話をお聞きしたんですが、子どもがいるのでフルタイムは厳しい、短時間だったらと希望はあるようです。どこの保育所も早出居残りの数も増えてきています。やはり短時間だと早出居残りもしてくれない、そこで人は不足になる。高松市は早出居残り時間だけでパートがいます。さぬき市は募集かけてもいないし、短時間にしてもいろんな課題があります。正規の職員は20代、30代と割合が多いので、産休育休がととも多いです。幼稚園も同じだと思います。正職ががたつと少ないので、臨職さんの割合が高くなっています。そういうことからうまく噛み合っていないと思います。</p>
(副会長)	<p>私どもの園でも産休育休と続きましたが、お互いさまでなんとか工夫してやりくりしてきました。現場の正職さんは負担かもしれないけれど、柔軟に考えて受入れしてくれたら。</p>
(委員)	<p>短時間の募集はしてないですか。</p>
(事務局)	<p>短時間での募集はしていません。</p>
(副会長)	<p>そのあたりを検討されたらいいかなと思います。</p>
(会長)	<p>一元化の方向とは、それ以外の根本的な問題ですけどそのことも踏まえて討を進めていただきたい。</p> <p>他にご意見がなければ、議案第2号につきましては、終了したいと思います。次に、議案第3号「津田地区における幼保幼保一元化の検討について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>【議案第3号説明】</p>
(会長)	<p>ありがとうございました。議案第3号につきまして、ご意見等がございましたら、お願いしたいと思います。</p>
(委員)	<p>新しい一元化した校舎は新築ですか。</p>
(事務局)	<p>新築にしたいと思っています。</p>
(委員)	<p>ぜひ改築ではなく新築でいかないと、印象が違います。東かがわ市の小学校は全部新しくなっています。そうなるくと気持ちも新たにというところもあって大事な視点ではないかと思っています。</p>
(会長)	<p>他にご意見がなければ、議案第3号につきましては、終了したいと思いま</p>

	<p>す。次に、議案第4号「民間事業者による認定こども園新設の要望について」を議題といたします。事務局の説明をお願いいたします。</p>
<p>(事務局) (会長)</p>	<p>【議案第4号説明】 ありがとうございます。議案第4号につきまして、ご意見等がございましたら、お願いしたいと思います。</p>
<p>(副会長)</p>	<p>今、長尾地区は子どもが増えているという話を聞いているのですが、資料を見ると減っている。今保育所の申し込みは第3希望まで書いていただいているが、それでも入れないと言う子どもさんは何名くらいいるのか。年度途中で100名入所されるということですが、100名全員が入れないのか数名が入れないのかわからない。100名入れないのであれば新設も必要でないかと考えられます。そうでない数名であれば必要ない。長尾幼稚園の平米数としては余裕があるのではないかと思います。例えば預かりを利用するか、ファミリーサポートをお願いすることを考えると、大きい税金を使うということからして、要望があれば受け入れるということにはならないと感じます。ただ、今希望があるところを受け入れるとすると、他にも長尾地区で作りたいと要望があったら、同じように受け入れるのか。民間活力を導入するというのもひとつの手かもわかりませんが、子どもの命を預かっている場であるという意識のもと、姿勢、理念、方針がはっきりしたところでないと受け入れできないのではないのではなかろうかと考えます。いかがでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>具体的な人数が出ているわけではないですが、言われるように長尾保育所たらちね保育園さんに行けない子どもさんはたくさん第3希望に自宅や仕事先の近くの保育園を希望されます。今回も受付で長尾地区が多かったのが現状です。何人かの把握は出来ていないですが、たくさん石田保育園さんに長尾地区の子どもさんを受け入れてもらっている状況です。待機児童がいないかという、さぬき市は待機児童はいないです。この理由は、待機児童の定義がありまして、車で20分以内の所で受け入れる場所があれば、待機児童はいないということになります。津田地区、特に津田東部保育所は受け入れが今でも出来る状態ですので、どうしてもお勤めで預けなければいけない人は津田東部保育所に預けています。遠いという理由で預けられない方もいます。</p>
<p>(副会長)</p>	<p>確かに家の近くで預けるのが一番いいです。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>都会だと預けられたらありがたいことになるのですが、田舎なので少しでも家に近いところがいいと言う方が多いです。</p>
<p>(副会長)</p>	<p>三木町との広域はやめるのですか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>さぬき市としてはやめる方向ではなかったのですが、三木町の子どもさんの人口が増えた関係で、今行っている子どもでも見てくれないという申し出がありまして、今4.5人行っていたのですが、平成28年度からは一切お断りしますと言われてしています。三木町が受け入れてくれないのであれば、さぬ</p>

	<p>き市も受入れを考えなければと思っています。</p>
(副会長)	<p>石田保育園さんは定員が 80 名となっていますが、建物は 90 名、平米数は 120 名くらい受け入れることはできませんか。</p>
(事務局)	<p>交渉はしているのですが、保育士不足の関係で建物はあるけれどもなかなか受入体制が整わないのが現状です。</p>
(副会長)	<p>課長さんが言われた子どもの数が減ったとき公立保育園・幼稚園の定員を減らすという話は、乱暴な話ではないかと思います。臨時職員でも正規職員目指してがんばっておられる若い方もいます。定員を減らすことは解雇につながると思います。</p>
(事務局)	<p>今回こういう状況を報告しなければならないということで委員さんにこういう要望があったことを報告して、いろんな見地からご意見をいただきたいと議題にしました。ここに書いていますが、公立幼稚園・保育所の定員削減というのは、それを考えているのではなくて、もし事業を実施することがあれば、民間さんに迷惑をかけないということで公立が後退しなければならない。そういった課題があるということで、新設要望されている方を認めるとか推進しようとかではないのですが、議論しないでお断りすることは出来ないでいろんなご意見をいただきたいと思って今回報告させてもらった。公立の定員削減ありきでは考えていません。</p>
(会 長)	<p>他にご意見がなければ、議案第 4 号については終了したいと思います。それでは、他に事務局の方から何かありますか。</p>
(事務局)	<p>連絡事項をさせていただきます。次回の子ども・子育て会議の日程ですが、予定では来年の 3 月末頃に開催しようと思っています。議題等はまだ決まっておりませんが、日程等決まりましたら連絡させていただきます。</p>
(会 長)	<p>ありがとうございました。長時間に渡りましていろいろなご意見いただきましてありがとうございました。本日はこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。</p>
(事務局)	<p>佐竹会長さん、ありがとうございました。最後に、閉会に当りまして山本健康福祉部長から、ごあいさつを申し上げます。</p>
(部 長)	<p>(部長挨拶)</p>
	<p>20 時 10 分閉会</p>